七日夕刊

磐城毎日新聞

發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯印刷人 岡田弘[illegible]

苦鬪

上野山正輝

爽かな晴れあがつた空を、[illegible]かうとかまつ繪具を無理に絞り出しカンバスへなすりつけてみるのだが、黴の生えた繪の具、私の意圖に反していつも暗い梅雨空しか現はさない。こんな具合の日々の狀態である。云ふなればこれは、メタン瓦斯の中に浮かんでゐる「深川」とでも云ふ處。住んでから生活環境が影響すること四、五年の間に原因があるらしい。本來の私は、知る人ぞ知る、寄らば斬り、觸れば斬る氣性なのである。尤もうしたのは今更氣がついた譯でもない。[illegible]環境から拔け出さなければならないと[illegible]身蚤に喰はれる如き焦燥をもつて努力してゐるではあるが、[illegible]の重みにもますます貧乏と云ふ[illegible]みに足を取られて、所詮身動きも出來ないのだと、哀れにも悟つた時は、よしそれならば[illegible]黒地に黒き「乏」字の旗印を押し立て、潔よく斬り死にせん、と悲壯にも覺悟を決めて、奮鬪[illegible]努めて居るのではあるが、情[illegible]な、頼る刃は赤鰯、毎月晦日に隅田川に捨てに行く大把の原稿用紙が苦鬪の跡を物語つてゐる。「勿體ない、お前の原稿用紙は質が柔らかなのだから、便所でも入れたら宜い」と私のお袋さんは言ふのであるが、[illegible]の恥を暗闇[illegible]おくのも苦痛なのである。

[illegible]霧をそつて苦しめる[illegible]

山のいでゆ

岩田雅美

○霧雨のひねもす降りて山の湯に爲すこともなしふみ讀みあきて

○盲したる[illegible]はか[illegible]もあ[illegible]んかと怖ぢつゝ深き霧に眞向ふ

○山の[illegible]べ消え去り[illegible]霧の深く流れて氣壓さる[illegible]ご[illegible]

○試驗管手にせずなりて[illegible]より歌讀むことにも[illegible]なじむ

○熱辨に銃後を訓ふ大いなる史の冊の心に聽衆どよめ

○いくとせか相見ぬ友のたよりに訪しみ讀めば出征ゆく[illegible]

○命か[illegible]いくさに征く人今友をなつかしむ[illegible]ならふべなふ

その日く

讀でしま[illegible]ま捨[illegible]するな　西洋俚諺

紺青のガウンを纏ひ次の[illegible]子を待ちよせの[illegible]る。

波濤

瀧澤二一

春の夜を
よもすがら
せめたてゝゐる
船はいやだと言ふのに
黎明のまで
くどきあかし
聞いてく[illegible]な[illegible]

連續講談

異說赤穗浪士

[illegible]「赤穗誠忠錄」

（75）

桃川若燕
[illegible]城本[illegible]

高田の馬場

『婆ア、飯があるか』

『妾のはあるけれど、お前さんは知らないよ』

『それぢや、お前のを早く持つて來い』

『冗談云つちや不可ないよ。糊を賣つてやつと買つたお米だよ。お前さん、食べられて堪るものかね』

『默れ』

いきなり立つた安兵衛、突然婆アの家へ飛び込むと、飯櫃の蓋を取つて手づかみで飯を掴んでムシャ〳〵食べ初める。

イヤ驚いたのは糊屋の婆、

『アツ、泥棒〳〵。飯泥棒』

喚きたてるが、安兵衛はそんな事にはお構ひなく、急いで飯を食ひ終ると飛鳥の如くに飛び出した。

お話し變つて此方は菅野六郎右衛門果し狀をつけられた上からは武士として『承知した』と云へぬ。定めの場所高田の馬場へやつて來る。

そこには、津田新五郎、寺田與右衛門、與之助の親子、外に丹羽五三郎、同じく八藏、柴中傳藏、何れも寺田の[illegible]親者がつれて待ちかねてゐる。

菅野の顔を見ると、

『アイヤ菅野氏、拙者、其許と多年の友誼を破り果し狀をつけたは他儀ではない、伜與之助の嫁とし一旦定めた津田御息女を[illegible]せ[illegible]爲[illegible]武士としてあるまじき奸策を[illegible]』

『それは怪しからぬお言葉、菅野六郎右衛門、婦女一人を兎角する爲に何で左様な事に[illegible]致す』

『云ふな、安兵衛は津田御息女に附[illegible]変を致し[illegible]』

『何んと云は[illegible]も拙者豈かも存せぬ、方々多數にて此老人を刀の錆に致さん仰であるなら拙者も武士の端くれ、立派にお相手致す……』

『オ、宜く申した、武士道の意地に依つて――』

『申されな、婦女の事にて武士道に事寄するは武士道が廢り申すぞ――』

『云ふな菅野……』

と短氣の津田新五郎、ギラリ鞘を拂ふと、拔打ちにスパリ斬りつける、ヒラリ身を躱した菅野六郎右衛門、年は取つても稀代の腕前を持つ、体を開き[illegible]れを拔打ちに津田新五郎の胴、――際どいところで後へ退る。これを見るより柴中傳藏、寺田與之助

『[illegible]手强ぞ、菅野を討て――』

と等しく斬りかゝる五名の者、六郎右衛門は[illegible]間ばかりの後へ飛び退り

『卑怯な眞似を致すな』

と云ふのを、背後へ廻つた寺田與之助、

『老ぼれ、廣言を吐くな』

と打ちました。ヒラリ体をかはしたが、與之助は、やくざだが堀內道場では五本の指に數へ[illegible]れ[illegible]遣手、身どもか[illegible]が開[illegible]は、[illegible]、羽[illegible]深、斬りつけられる。寺田與之助か[illegible]割りつ[illegible]れ、アッと云つて[illegible]〳〵と蹌踉く、ところを、[illegible]斬り込んだ柴中傳藏、左右から斬りつける丹羽五三郎同じく八藏のため散々に斬りつ[illegible]遂に絕命。

『イヤ吾等とんだ骨折でござつた、お蔭で首尾よく仕止めました、併し年に似合ず骨つぽい爺だ。サア八幡へ參詣をし、お禮を[illegible]ではないか』

と一同で馬場の東、高田神社の方へ行かうとする。

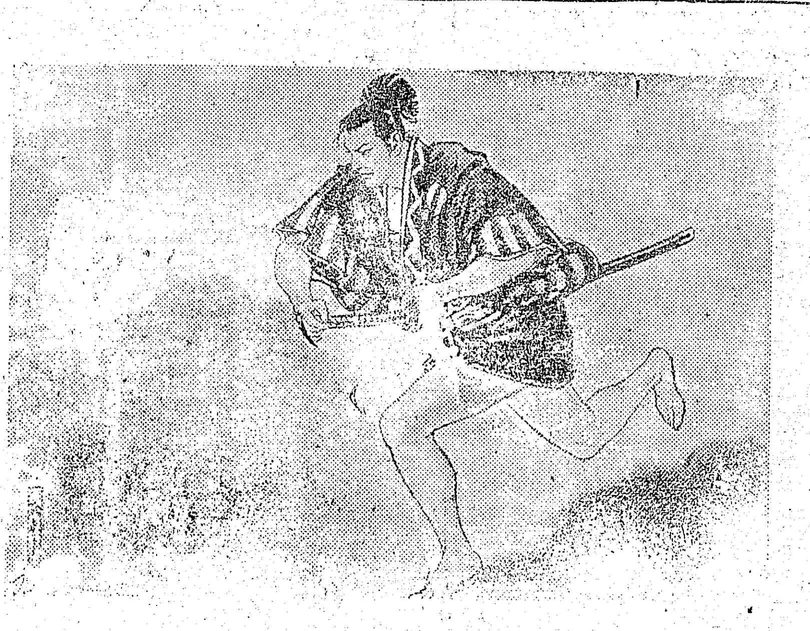
見物の人々は

『どうも氣の毒ですね、何しろ年を老てゐるが敵ひませぬや』

『左様、惜しい事をしましたな、それにしてもあの背後へ廻つた若い侍、一人に多勢が向ふのだ、アンナ卑怯な眞似をするなん[illegible]怪[illegible]』

[illegible]菅[illegible]ゾロ〳〵[illegible]

[illegible]て來る。



小兒科・內科
酒井醫院
入院
平市南町（電五五番）
醫學博士 酒井保

「貯蓄は無盡で」
一歩一歩が富の山
社交が厳しくならぬうち
無盡かけましよう今のうち
三仟圓
磐城無盡

ほねつぎ
桑原柔道整骨院
平市公園下　電八七四

田舎の
おしること
ぞうに
平[illegible]町 電632

おでんさ
ヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

[illegible]
おでんの
柴ちゃん
平市[illegible]町[illegible]
電話二三[illegible]番

軍服こ國民服
髙
高島屋の洋服
御[illegible]文に 並製品 既製品
平市二丁目通
電話三六八番

味自まん
米屋の最中
最中屋が誇る御進物御土産として
味自まん 三笠燒
風味 御土産 三色羊羹
を始めました。どうぞ最中と御[illegible]御最負願ひます。
平驛前通り
米屋最中店

四倉局管下
電話御入用の御方は
當支局へ御申込下さい
磐城毎日新聞社四倉支局
本町百十四番地
〔旅館[illegible]館向ヒ裏〕

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市紺屋町 電話六八[illegible]

開院
外科一般
內臟外科
整形外科
肛門病科
性病科
レントゲン科
平市南町（平郵便局本局裏通り）
上田外科醫院
院長 上田耕作
電話一二九番

ホシ
ミクローゼ
酵母劑の上を行く…綜合ビルツ劑
健康をつくるにも
病氣を治すにも
便秘の害を先づ除け！
便秘ほど怖しいものはありません。逆上、メマヒ、息切れ、吹出物、頭痛、倦怠[illegible]、遂には致命的な高血壓をさへ誘發します。しかし、便秘をコソクな對症療法で治さうとするのはこの上もない危險です。連用は習慣を生み、腸の働きをバカにして了ひます。
ミクローゼはビルツ（有効菌）の産生する各種消化酵素とビタミンBの力によつて、腸の[illegible]を強め[illegible]を省き、[illegible]理のない[illegible]便秘をもなくすのであります。
星製藥株式會社
東京 五反田
試藥無代進呈 切手十錢封入[illegible]
胃腸 食慾 榮養
一ヶ月分三六〇錠 一圓五〇錢
醫學博士 豐島[illegible]先生[illegible]製

胃腸強壯
能動
食慾
便通
睡眠

翼贊運動 軌道に乘る
縣支部發會を直前に
協力會・下部組織に着手

大政翼贊會本縣支部長は六日開かれた常務委員會で橋本知事を推薦することに決定同日の委員會で縣支部役員並に郡市町村支部長銓衡案、縣支部規定等決定、十一日に縣支部を結成して直ちに郡市町村支部の組織に着手することになり、本縣の翼贊運動も漸やく軌道に乘つて來た、

翼贊會縣支部役員（七日發表）

顧問　平市五丁目　諸橋久太郎
仝　石城郡小名濱町　小野　晋平
仝　石城郡錦村　金成　通
仝　石城郡植田町　古川　傳一
仝　石城郡内郷村　大内　民惠
理事　平市田町　藤田　榮助
參與　平市田町　蓮沼　龍輔

諸橋久太郎氏 平市の素封家で早大法科出身、縣農工銀行重役、貴族院議員の現職にある

小野晋平氏 小名濱町長で縣會議員三期現職にあり翼贊會縣支部常務委員に擧げられ磐城水產工業會社々長、小名濱臨港鐵道重役、田村銀行重役等財界にも重きを爲してゐる

金成通氏 は植田水力電氣會社を創立し經營し現在社長で磐東銀行重役、縣農工銀行重役等を歷任錦村長、縣會議員二期、前貴族院議員として舊政友會支部の元老である一時病弱だつたが最近は健康を快復し活動に期待かけられてゐる

古川傳一氏 植田町に酒造業を營み縣會議員一期現在植田町長、鮫川疏水常設委員で地方產業開發に貢獻する處大きい

蓮沼龍輔氏 栃木縣筑波村出身、大正四年頃炭鑛經營、同十年から磐城新聞經營し縣會議員二期現職、平市會副議長、入山炭鑛自治會顧問縣石炭配給委員等の要職にある

大内民惠氏 安達郡移田村生れ、苦學力行して小學校檢定試驗をパス本科正教員の免許證を有ち海外へ雄飛したが成功せず歸朝、大正七年早大政經科に學び同十二年以來磐城炭鑛の設備を經營、現在方面委員、縣協和會理事、海外移住官民協會理事等の要職にあり磐山の中心地にあつて社會事業方面に盡力してゐる篤學者である

縣支部規程

第一條 福島縣並に郡內各市町村に支部を置く、但し町村組合を設けた町村にあつては組合の區域に一支部を置くことを得

第二條 縣支部の事務所は縣廳市に郡支部の事務所は郡支部長の定むる町村に置く

第三條 支部に左の役員を置く

一、縣支部、支部長一名、理事若干名、顧問同、參與同、但し縣支部長必要と認めたる時は常任參與を指名することを得

一、郡市町村支部　支部長一名、理事若干名

前項に定めたるものの外市支部に限り縣支部長必要と認めたる時は顧問、參與各若干名を置くことを得

第四條 役員は縣支部長にありて總裁これを指名または委囑す、この他の役員は縣支部長の推薦により總裁これを指名、または委囑を妨げず

第五條 支部長は總裁及び上級支部長の指揮を受け支部を統理す、理事は支部長を扶け支部に關する重要事項を審議す、顧問は支部長の諮問に應ず、參與は支部の企畫及び活動に參與す

第六條 支部にその事務を處理するため事務局を置く

第七條 縣支部の事務局に庶務部及び組織部を置く、庶務部は支部の庶務及び協力會議並に國民生活、指導宣傳などに關する事項を掌る組織部は國民の地域的及び地域的組織、國民に對する各種訓練及び指導、各種團體との連絡に關する事項を掌る、部に部長を置き理事の中より支部長これを指名す

第八條 事務局に必要なる職員を置くことを得

第九條 支部に協力會議を付置す、但し市町村常會をもつてこれに充つ

第十條 協力會議の議員はその區分に從ひ左に揭ぐるものゝ中より縣支部長の推薦により總裁これを指名または委囑す

一、縣協力會議（イ）郡市協力會議員（各郡市より一名以上）（ロ）各種團體代表者（ハ）縣會議員（ニ）その他適當なるもの

一、郡協力會議（イ）町村協力會議員（各村より一名以上）（ロ）各種團體代表者（ハ）その他適當なるもの

第十一條 協力會議員の定數は縣にありては卅名乃至六十名とし郡にありては廿名以上六十名以內において縣支部長これを定む

第十二條 協力會議の議長及び副議長は縣支部長の推薦により總裁これを指名す

第十三條 協力會議は支部長これを招集す、協方會議は年に二回以上これを開會す協力會議の會期は縣協力會議にありては三日以內とし其の他の協力會議にありては二日以內とす、但し必要に應じ延長することは妨げず

第十四條 行政官廳との連絡を保持するため縣支部に連絡委員會を置く、連絡委員會の委員は縣支部長これを指名、または委囑す

第十五條 市町村の部落會または町內會の區域に當該支部の分區を設け部落會長または町內會長を分區長に充つ

第十六條 支部の經費は本部補助金その他の收入をもつて充つ

歳末救濟の同情週間
平市は二十日から

既報、平市の歳末同情週間は二十日から二十七日まで一週間行ふことに方面委員會で決定、行政區長を通じ市內全戸へ同情袋を配布、隣保互助の精神で一般から同情金を集め貧しい家庭に温いお正月を迎へさせることになつた

鰯のはゝ刺し加工業で
小名濱の人口大膨脹
町の惱みは配給品の確保

小名濱町が五百萬圓の生產を目差す鰯の頰刺し季節に入つたので農閑期を利用して臨時に働く相馬、會津方面の雪國から季節的出稼人が續々小名濱へ入込みつゝあり、最盛期には二千名を超へ、臨事的な揚繰漁業の漁師、附近農村の稼人などを加へると小名濱町の人口は一躍二萬三、四千名の多數に上り、今月末頃から明春四月頃まで鰯の加工業で不景氣知らずの活況を呈することに成る、從つて切符制に成つた砂糖、米、木炭、燐寸等々生活必需品の配給を如何にして圓滑に行ふかに町當局も今から頭痛鉢卷の態で各加工業者及船主に對し至急豫定使用人員の申告方を督促してれが對策に忙殺されてゐる、右について町役場の高木助役は語る

何處の都市でも冬期間は一般に沈滯勝ちなのに小名濱町は月末から明春四月頃まで大した景氣です、鰯漁のおかげ樣で此處暫らくは小名濱町も縣內三大市に肩を並べられる譯です、然し季節的な人口增加だから米、木炭、砂糖、燐寸などの配給には全く弱りました、然しこの配給が圓滑に行かないと生產の方に直接影響があるので物資の確保には頭を絞つてゐます

平授產場の擴張案
方面委員會で承認
一萬圓の公費で副業施設充實

平市社會事業助成會が出征軍人遺家族の副業施設を擴張する計劃の元に既報の如く六日午後一時から市會議事堂に方面委員會を開き

工費九千六百八十內、作業室、事務室、製品室（六十坪）工費、九百十八圓、材料置倉庫（十坪）

一萬五百九十八圓の豫算で二棟建築する追加豫算案は滿場異議なく可決、當日堀江工業を指名請負契約も成つたので縣の認可あり次第直ちに着工せしむることに成つた明春四、五月頃までに竣工せ

同授產場は現在四十三台のミシンを備へて七十名の從業員（遺家族）を擁し軍部關係の下請負作業を行つてゐるが作業場の狹溢から收容し切れず仕事を自宅へ延長してゐる有樣で業務の性質からするも擴張の要に迫られてゐたものである、作業場其の他の增築に伴ひミシン台も更に四十台增設從業員の收容數も百二、三十人に增員生產能率を上げることになつた

となりぐみを語る (5)
「消費節約」の實踐
新田町隣り組（防空第十、十二群）（三）

平の街・この丁の
第四回常會

一、麥購入配給の事

節米は前以て實施致して居る事は申上げておりましたが、中々麥購入に困難があり、不平の聲も相當あるので縣農會平署經濟課市農會等へ交涉致しましたが今日に致るも其の目的達成にはなつて居りません、勝手と存じて居ります、

一、衞生綿其他配給の事

場所柄先般の配給數にては如何とも困るので常會長へ其の趣を傳へました

一、消費節約實行に關し諸實例の事

消費節約〱と叫ばれては居りますが、實際いかなる事が消費節約かと何人も思つて居りますので其の一つ一つが各家庭に於て實行する事の必要を認め會員鈴木武雄氏に研究方を依賴して置きました處△こげ飯の直し方△がんだめしの直し方△小さくなつた石鹼の使ひ方△魚の煮方△雨傘の破れの直し方等々說明があり有意義と存じ會每こうした事を數種發表を御願致しました

一、靖國神社臨時大祭に關する事

來る十月十八日靖國神社祭典の爲め常會員は無論組內全部中央空地に午前十時集合し十時十五分、畏多くも天皇陛下御親拜の同時刻に一同（約七十名）靖國神社の方に遙拜致しました、この集合が一同の深く感ずるところとなり祭日、祝日は必ずこの空地に集合の上此後共實行する事になりました

一、體育向上徒步遠足の事

十一月一日午前十時登山（未定）することになり其のコース其他は常會世話人一任となりました、出席三十一名

お願ひ

市內の常會で他に範とすべき申合せや活動狀況等、現に實行しつゝある事柄を詳細御寄稿願ひます、〔となりぐみ係〕

平市の常任方面委員

平市內の常任委員は六日の委員會で左の如く決定した

第一方面（西部）門傳　淸吾
第二方面（東部）岡田　專藏
第三方面（平窪）鶴田　廣隆

浪曲界の元老招き
資金造成 特別興行
"虎造、梅鶯、綾太郎、榮樂"來る

授產場の擴張に伴ふ工費一萬餘圓の捻出には助成會でも頭を痛め一時借入れを行つて工を進め、縣及市其の他の補助を受ける一方自らも基金を造成する爲浪曲界の最高人氣を集めてゐる『虎造、梅鶯、綾太郎、榮樂』粒撰りの元老株四名を招聘二十五日午後三時から公會堂に於て地方では容易に聽かれない浪曲大會を開催することに成つた、會費一圓八錢（稅共）で何れも長講二席位宛語る豫定で夜九時頃閉會するものと見られてゐる

家賃の統制令で
悪家主槍玉
九・一八を無視高値で貸す

平市新川町林秀壽（六四）は木造平家一棟を四疊半乃至八疊に區限つて十二戸となし內十一戸を月三圓乃至六圓で吉田政義外二十數名に賃貸したが其の間店子の變る每に五十錢一圓と値上した爲三圓の家賃が五圓になつたなど想像も及ばない悪德振りをなし十四年十一月末迄に九、一八の指定期日の家賃に引下ぐべきに拘らず依然として「俺の家を俺が貸すのだ」とばかりに今年十一月迄續け小川三郎外十余名から約二百圓の不法利益を得たこと發覺目下平署中澤司法主任の取調べをうけてゐる、林は非常に亂暴な老人で店子が不平でも持込むと女や老人だと暴力を振つて追立てるなど店子いぢめで有名で檢擧されたのを知つた店子連中は取調べが成るべく長引くやうと祈つてゐる

石城郡內
生兎共販

石城郡農會斡旋の生兎共同販賣は左記日割で各農會で行ふ今年は飼育者多く昨年に比し約三割方增加一千頭の見込であると

十二日磐崎、十四日大野、十六日山田、十八日大浦

亡母の遺志で
奉公會へ三十圓寄附

平市大町清水安弘さんは亡母の遺志に依り七日市銃後奉公會へ三十圓寄附した

退職を記念し
大鏡寄附
元四倉校新妻訓導

四倉小學校の元訓導新妻玉代さんは同校に奉職すること十七年に及び本年三月退職記念に價格四十圓の大鏡を同校へ寄附した

感心な入營兵
母校へラッパ寄附

四倉町字田戸佐藤喜義長男喜三君は此度入營に際し記念として母校へ喇叭一個寄附した

譽れの高い
庄司寅治さん
町葬費を浮かして寄附

四倉町本町に農業を營む庄司寅治さんは七日町葬を行つた五男宏君の葬儀費を節約して小學校基本金三十圓、四倉警防團、銃後奉公會、在鄉軍人分會、國防婦人會、女子青年、男子青年、人事相談所へ各十圓計百圓を諸團體へ寄附したので町民は何れも感激してゐる

同寅治さんは四人の男子の內四男正一君も前線で華々しい戰死を遂げ、三男壽忠君も軍屬として北支で活躍中惜しくも病歿、宏君共三人まで御國へ捧げ「丈夫な子を持つたおかげで御國の爲に盡すことが出來た…」と家の譽にしてゐる忠義一徹の人である

平木商組合
十三日臨事總會開く

既報、共同販賣事業を決定する平木炭商業組合の總會は十三日午前九時から市公會堂日本間で開くことに決定した

慰問ご奉仕の
舞踊會

明八日市公會堂で花柳登代藏師匠門下生一同の主催に成る出征兵遺家族招待[illegible]會"は既報の如く明八日晝一時から平市公會堂に開かれるが慰安と基本金造成が目的である熱心な門下生の催しだけに好評を呼んでゐる

天氣豫報

今晚　南東の風曇小雨
明日　南東の風後北西に變曇小雨後晴

二十八日
滿潮　前二、二五　後二、四五
干潮　後六、二五　前四、五五

舊十月十日　乙酉　友引　收　房宿　新十一月八日

△一白　巡り來れる幸運逃さゞる樣努力あるべし　△二黑　障碍生じ易き日成るべく內を守るべし　△三碧　迷うん眼前にはりて行く手の定まらざる日　△四綠　氣心に落付きなき生じ來る日急がば廻るべし　△五黃　易いの生じさ日何事も手控が安全　△六白　其の位置に安んじ日課を怠らぬ樣にすべし　△七赤　小を得て大を失ひ易し[illegible]より守るが無事　△八白　知つた振よりふなれの事を持込まれする日　△九紫　張合ひよく事業の進み行く[illegible]

附屬產院　新設
姙產婦入院隨意
產科・婦人科　木村病院
平市新川町　電話一六四番

產科婦人科　根本醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番
（入院隨時）

平市田町　電話五一三番
內科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
高久病院
院長　醫學士　高久忠

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主　院長　醫學博士　鈴木定藏
內科 小兒科　院長　鈴木定藏
內臟外科 一般外科 皮膚泌尿器科 レントゲン科　副院長　高橋俊幸
物理的療法科　院長　鈴木定藏
藥劑科　部長　吉本孝平
診療時間　每日午前八時より午後九時まで夜間診療に從事す（急患は此の限りにあらず）

皮膚、泌尿器、性病科
江尻醫院
江尻伊三郎
平市田町　電話六九一番

病室增築、手術室完備
產科 婦人科　醫學博士　五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」